



平成 28 年 11 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社ユーラシア旅行社
代表者名 代表取締役社長 井上 利男
(コード番号：9376)
問合せ先 取締役管理部長 出口 桂太郎
(TEL. 03-3265-1691)

平成 28 年 9 月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 4 月 28 日に公表いたしました平成 28 年 9 月期通期連結業績予想値と、本日公表した実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異

平成 28 年 9 月期通期連結業績予想との差異（平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,459	54	66	38	10.30
実績値 (B)	4,988	65	51	△42	△11.46
増減額 (B - A)	△471	11	△15	△80	—
増減率 (%)	△8.6	20.4	△22.7	—	—
(参考) 前期実績 (平成 27 年 9 月期)	5,970	40	36	16	4.37

2. 差異が生じた理由

①営業収益

当社では、前期（平成 27 年 9 月期）において、日本人拘束及び殺害事件をはじめとする I S I L（いわゆる「イスラム国」）の過激な行動によって、イスラム諸国及び I S I L の活動の影響が想定される地域で当初計画していた旅行の催行取り止め等の需要減の影響を顕著に受けま

した。

また、当期（平成28年9月期）においては、平成27年11月にパリ同時多発テロ事件が、平成28年3月にベルギーテロ事件が新たに発生し、「I S I Lの活動が連想される地域」としてこれまでのイスラム圏だけでなくフランス及びベルギーの欧州圏も強く想起されることとなり、これらの地域への旅行の一時的な急激な手控えが起こる結果となりました。

そして、下半期営業収益に関しては、対前年同期比5%減の予想を立てておりましたが、平成28年6月のトルコイスタンブール空港事件が続くなど、テロ事件の収束は想定より遅れ、旅行需要の手控えの傾向についてその落ち込みが想定に対して471百万円大きくなりました。

そのため、営業収益は、平成28年4月28日に公表いたしました修正予想対比8.6%減の4,988百万円となりました。

②営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益は、上記のとおり営業収益の落ち込みはあったものの、経費削減の実施に努め、平成28年4月28日に公表いたしました修正予想対比20.4%増の65百万円となりました。

経常利益は、平成28年9月期において29百万円の為替差損を計上することにより、平成28年4月28日に公表いたしました修正予想対比22.7%減の51百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、当社では、前述のとおり、平成27年11月に発生したパリ同時多発テロ事件並びに本年3月にベルギーテロ事件の影響を受け、I S I Lの活動が想起される地域について需要の減少の影響を受けておりますが、その影響については国連を中心とする世界各国の連携により徐々に沈静化及び局地化していくものと考える一方で、旅行需要の増加予測については安心して海外旅行に出られるだけの顧客心理の変化に負う部分があるためにその動きは鈍くなり、今後3年程度をかけて前期（平成27年9月期）の水準に戻るものと想定をしております。従って、繰延税金資産の回収可能性の評価にあたってより保守的な見地から検討を行うこととし、当期末において73百万円の評価性引当金を追加計上することとし、これにより法人税等調整額が同額増加したため、平成28年4月28日に公表いたしました修正予想38百万円に対し、親会社株主に帰属する当期純利益は△42百万円となりました。

以上